

これはもう憲法私物化？

表題は毎日新聞 6月15日夕刊「特集ワイド」のタイトルである。憲法学の重鎮、慶応大の小林節名誉教授は「憲法軽視発言は、安倍政権が独裁化している証拠です！」と声に力を込める。まず問題にしたのが、5日の自民党役員連絡会で飛び出した高村副総裁の発言。「憲法学者はどうしても9条2項の字面に拘泥するが----」という内容だ。小林氏はこう反論する。「憲法学者が法律の『字面に拘泥』するのは当然です。言葉にこだわる学者を煩わしいと思うなら、それは政治家の慢心。人治国家と法治国家を、あるいは独裁国家と民主国家を分けるのは、約束を言葉にまとめた法律です。『字面』をないがしろにすれば、その先にあるのは独裁政治です」

最もとんでもない発言と小林氏が憤るのが、5日の衆院平和安全法制特別委員会での中谷防衛相の「現在の憲法をいかにこの法案に適応させていけばいいのかという議論を踏まえて（集団的自衛権行使容認の）閣議決定を行った」という答弁だ。中谷氏もさすが10日の同委で発言を撤回したが、小林氏は「立憲主義を何と考えているのか。まさに憲法を軽んじる失言で、語るに落ちたと思いました。『論言汗のごとし』の格言通り、責任ある者の一旦発した言葉は簡単に取り消したり訂正したりはできない。このような人物が防衛相の要職にあること自体問題です」。中谷氏に「レッドカード」を突きつける。

写真は週刊朝日 6月26日号である。「違憲」証言の憲法学者が緊急対談！「安保法制は撤回せよ」とある。怒りの発言が続く。ここでは、早大の長谷部恭男教授の最後の発言だけを紹介しておく。

自民党も公明党も憲法学界の見解に対するネガティブキャンペーンをしていますけど、早くおやめになったほうがいい。あの方々のためにならない。たとえば私について「安全保障は素人」と言う人がいるようですが、私は安全保障に不可欠な特定秘密保護法案の参考人として国会に呼ばれたんです。あのとき素人と呼んでくれたことになりませぬ（笑）。自分たちの都合のいいことを言ったら「専門家が言った」と持ち上げ、都合の悪いことを言ったら「あれは素人だ」と言うのは、人の道に反している。法案を通すためなら何でもするという話です。いい加減にしたほうがいい。

(2015年6月26日)

